

2013.11.1

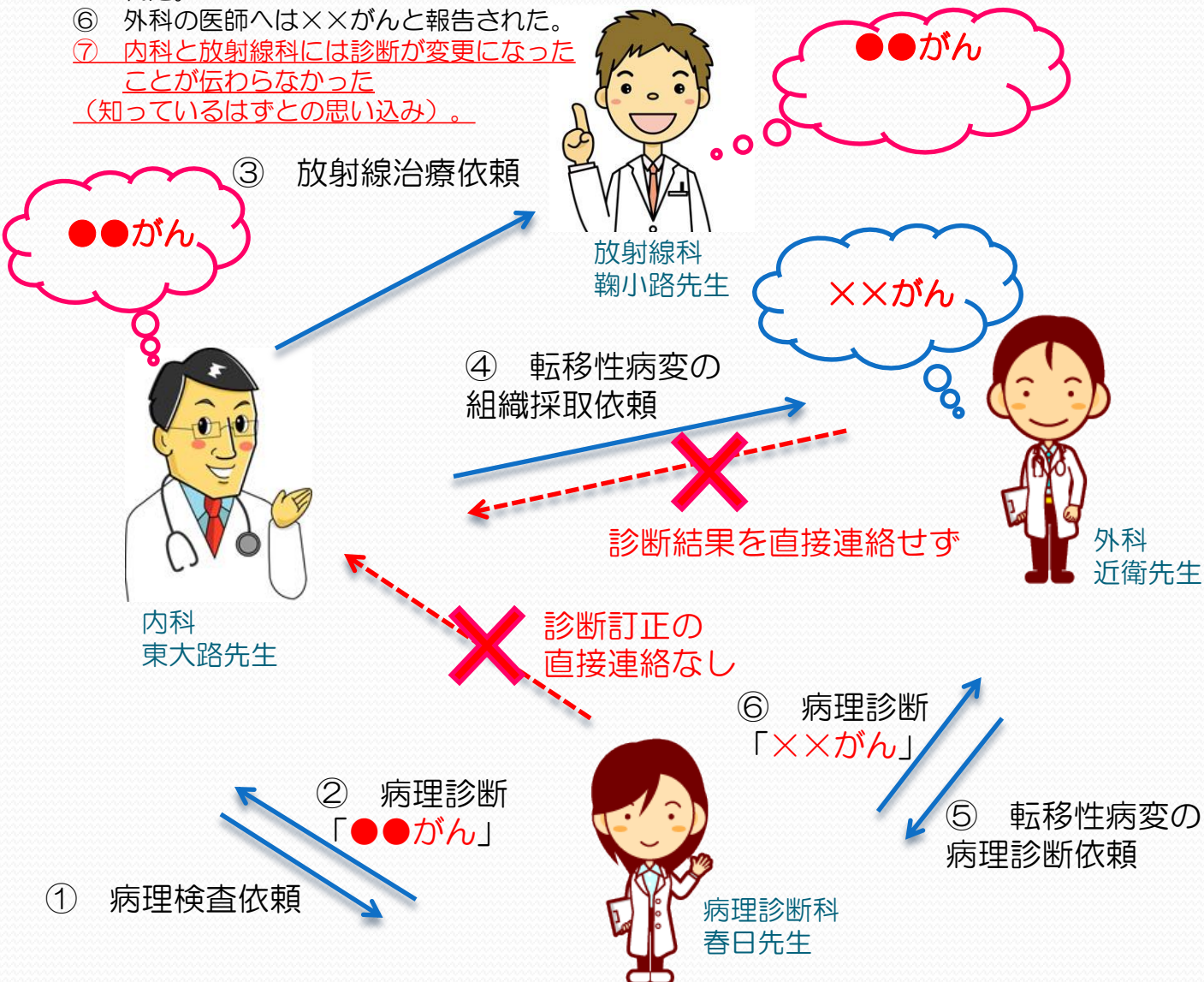
京大病院医療安全情報43

【重要メッセージの共有】

＜当院事例（実際の事例をもとに加工しています）＞

最初の病理検査で●●がんと診断されたが、転移病変の病理診断結果によって××がんの診断に変わった。この情報が速やかに共有されず、患者にも伝わらなかった。

- ① 内科医師が、病理検査を行った。
- ② 病理診断の結果は●●がんだった。
- ③ 放射線治療目的に患者は内科から放射線科に転科した。
- ④ 転移病変が出現し、内科から外科に紹介し、外科が組織採取し、病理検査をおこなった。
- ⑤ 転移病変は××がんと判明した。最初の病理も追加免疫染色にて××がんと診断が訂正された。
- ⑥ 外科の医師へは××がんと報告された。
- ⑦ 内科と放射線科には診断が変更になったことが伝わらなかった
(知っているはずとの思い込み)。



インシデント報告に基づいた「お知らせ」です

京大病院医療安全情報43

【重要メッセージ共有ツールを作成しました】

なぜ、病理診断の結果が共有されなかったのか？



電子カルテをみたら結果は書いてある



・・・と安心すると、情報が共有されない可能性あり。
直接担当医に連絡するか、下記の機能を使用する。

新規作成したツールをご紹介します

0000052 テスト52
病理検査の診断を訂正しています。
至急結果を確認してください。

メッセージを見た方は下記へ連絡してください。
病理診断科 医員 吉田花子
内線 3488

警告メッセージを発信した職員のみがメッセージを消去できる。
消去するまで、カルテを開くたびにメッセージが表示される。

当面、病理診断結果の連絡時のみ使用する運用とします。